月刊 あなたにこの本を！ 平成19年4月号

大阪市立図書館　「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

・・・字が大きめ　・・・中高生にも　・・・図・写真が多い

※価格のあとの（　）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

蝶々はなぜ菜の葉にとまるのか
ー日本人の暮らしと身近な植物ー

稲垣 栄洋　著　三上 修　絵
草思社　1470円（0011304347）

ジャンル ： 自然・環境を考える

お正月の門松や、子どもの日のしょうぶ湯など、季節感ある年中行事では植物がことさら重要な役割を果たしている。それは、人間がはるか昔から自然の恵みを活用してきた証だと言えるだろう。何気ない暮らしの中で活躍する草木や花のルーツをたどり、人間と植物が織りなすドラマに迫るのが本書だ。自然との共生が崩れかけている現代にこそ、古人の知恵を見直して欲しい。そんな著者の思いに、繊細なペン画が彩りを添えている。〔470.4〕

生き物屋図鑑

盛口　満　著
木魂社　1785円　（0011327723）

ジャンル ： 自然・環境を考える

「生き物屋」とは、生き物好きがこうじて「ある一線」をこえた人々が、自らを評してつけた名前である。「骨屋」である著者が、毒蛇に囲まれて暮らす「ヘビ屋」や、台所で拾ったゴキブリの触覚も標本にしてしまう「虫屋」などの仲間の生態を紹介。「冬虫夏草屋」「フジツボ屋」も登場し、こんなものにも愛好家がいるのかと驚かされる。生物の魅力を熱く語る「生き物屋」たちの様子にひきこまれ、普段気にも留めない虫たちへの興味がわいてくる。〔460.4〕

昆虫にとってコンビニとは何か？

高橋敬一　著
朝日新聞社　1260円　（0011329302）

ジャンル ： 自然・環境を考える

表題のほかに、「昆虫にとって人家とは何か？」「昆虫にとって戦争とは何か？」など、一見珍妙な設問が28項目ならぶ。昆虫にとっての問題を考えているはずなのに、人間は環境に何をしてきたか、人間にとって文明とは何かというように、つのまにか私たち人間自身について考えさせられてしまうから不思議だ。また、農学博士であり、自らを昆虫マニアと呼ぶ著者の文章は、虫への隠しきれない愛情が随所にみえて、ほほえましい。〔486〕

犯罪不安社会 ―誰(だれ)もが「不審者」? ―

浜井浩一、芹沢一也共著
光文社　777円（0011332266）

ジャンル ： 現代社会を見つめる

毎日のように殺人事件が報道されるが、治安は本当に悪化しているのか。『犯罪白書』執筆経験を持つ浜井氏と思想史を専門とする芹沢氏。この二人が統計と思想の面から日本の治安は決して悪化していないことを示す。そして、根拠のない不安から始まった防犯活動が、隣人さえも信じることができない社会を生み出しつつあることに警鐘を鳴らす。また、他人を不審者として排除する前に、正しい認識にもとづいた、施策の必要性を訴える。〔368.6〕

図解アメリカ発明史 ―ふしぎで楽しい特許の歴史―

スティーヴン・ヴァン・ダルケン　著　松浦俊輔　訳
青土社　2730円（0011303461）

ジャンル ： 知識・教養を深める

発明をし、特許権を得ることはアメリカンドリームを実現する方法のひとつだ。そのため今日まで様々なモノが特許の対象となってきた。本書では主に米国で出願された特許を、その誕生にまつわるエピソードとともに紹介する。風船ガムやエアバッグなどの画期的な発明から、はたまた役立つ機会があるのか見当もつかない代物まで、人間の想像力の奥深さを感じることができる。索引もついているので、モノの起源を調べるのにも役に立つ。〔507.1〕

頭がよくなる照明術

結城未来　著
PHP研究所　777円（0011314913）

ジャンル ： 暮らしにうるおいを

私たちの周りには様々な光があふれているが、単に明るければいいというものではない。光は直接脳に働きかけて心身に作用するので、上手に使えば体調管理やストレス解消にも役立つと著者は語る。日本初の「灯りナビゲーター」である著者が、仕事のはかどる光や、快眠を促す光、相手に良い印象を与える照明術など、ちょっとした工夫でできる活用法を紹介する。ライフスタイルに合わせて、心と体にやさしい灯りをともしませんか。〔545.6〕

古いものに恋をして。 ―骨董屋の女主人たち―

千葉　望　著
里文出版　1890円（0011332944）

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

どこか懐かしく美しい品々に魅せられ、その商いを仕事に選んだ女性たち。彼女たちの生い立ちや、骨董品への思い入れ、店を経営する上での苦労話などをつづる。父の急死により店を引き継いだ人、優秀な営業ウーマンから転身した人、骨董界の伝説の男を夫に持った人、それぞれの個性的な半生が語られるルポルタージュ。好きだけでは商いはできないが、自分の感性を信じ、仕事としてやりとげた力強い生き方に心うたれる。〔709〕

ナチスから逃れたユダヤ人少女の上海日記

ウルスラ・ベーコン　著　和田まゆ子　訳
祥伝社　1995円（0011304340）

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

第二次世界大戦中、ナチスの迫害にさらされ行き場をなくしたユダヤ人を、唯一ビザなしで受け入れていた場所がある。それは「東洋のスラムで肥溜(だ)め」と呼ばれた、日本軍占領下の上海だった。本書は、1939年にドイツから家族とこの地へ逃れた著者の、9年間の思い出をつづる。悪臭や疾病に苦しめられ、ナチスの動向におびえる不安と絶望の日々の中で、多くの人と出会いながら「今を大切に」生きた少女のみずみずしい姿に感動させられる。〔Gヘコン〕